

米価下落今後の動きに注目

今年も新米の時期を迎えた。本来であれば喜ぶべき収穫の秋だが、関係者の思いは複雑ではないだろうか。太平洋岸の低温、各地で頻発する集中豪雨が発生したものの、民間機関の推計によれば7月末時点の25年産米の作況は平年並。すでに西南暖地に続いて、三重や関東南部の収穫が始まっている。産地・消費地が価格の落ち着き場所を模索するなか、今後の価格動向には目を離せない。今号では現在のコメ情勢についてまとめた。

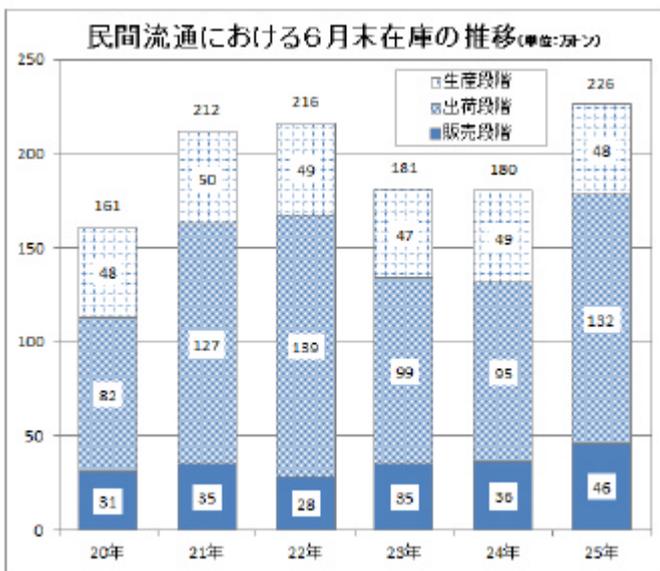
24年産米の状況～減少する業務用需要～

現在24年産の卸間価格は全農相対価格から60kg当たり3,000円～5,000円下回る価格で取引されている模様。25年産米の収穫を目前に相場は弱含みだ。卸の多くが24年産在庫を持つなか、卸からの買い気が弱いのが原因だ。そして卸の在庫は24年産米の需要の減少が大きく影響していると考えられる。

7月26日に農林水産省より公表された「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」によれば、平成24年7月から翌年6月までの需要実績は779万トンと前年に比べ20万トンの大きな落ち込みを見せた。需要の落ち込みと連動して、今年6月末の民間流通在庫は226万トン。前年同時期に比較して46万トンの増加だ。そしてこの増加分は集荷・販売段階の卸売業者の在庫となっている。

24年産での消費が減少した理由の一つとして留意すべきは、コンビニエンスストアのおにぎりや弁当、全国展開する丼物チェーン店などの業務用ユーザーによる使用減だ。コメ卸売業界では20～30万トンの使用数量が減ったと見込む。

背景には24年産の米価高がある。米価の高騰を受けて、おにぎりや弁当の販売単価を維持するために大手コンビニなどが製品一つ当たりの炊飯量を若干減らしたのだ。おにぎりや弁当の1アイテム当たりの減量は数グラムであるが、毎日コンビニ店頭で並ぶおにぎりは1000万個。年間を通じた影響は大きい。また、丼物チェーン店がオペレーション向上を目的として炊飯量を計量できる機械を導入し、盛りむらによるロスが減ったこともあるだろう。加えて、製品原価を圧縮するために、価格の安い特定米穀(くず米)や外米、もち米を混ぜて使用したケースも見ら



25年産のJA系統概算金・相対販売価格単価

(9/2現在 単位:60kg当たり 税込 円)

| 県産 | 銘柄 | 25年産概算金価格(1等) | 参考 24年産同時期概算金価格(1等) |
|----|-----------|---------------|---------------------|
| 新潟 | 一般コシヒカリ | 13,700 | 15,500 |
| 新潟 | 魚沼コシヒカリ | 16,700 | 19,000 |
| 茨城 | あきたこまち | 10,000 | 13,600 |
| 茨城 | コシヒカリ | 11,500 | 14,000 |
| 千葉 | ふさおとめ | 11,000 | 14,700 |
| 千葉 | ふさこがね | 10,800 | 14,500 |
| 千葉 | あきたこまち | 11,000 | 14,900 |
| 三重 | コシヒカリ(一般) | 11,700 | 13,500 |
| 三重 | コシヒカリ(伊賀) | 12,200 | 14,000 |
| 三重 | あきたこまち | 12,800 | 15,500 |
| 徳島 | コシヒカリ | 11,400 | 15,400 |
| 高知 | 南国そだち | 10,400 | 14,000 |
| 高知 | コシヒカリ | 11,000 | 15,800 |
| 高知 | ナツヒカリ | 10,000 | 14,000 |
| 宮崎 | コシヒカリ | 12,000 | 15,000 |

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

れ、これらの要因が主食うるち米の使用量減少につながったとみられる。

25年産米の状況～契約に慎重な買い手と産地の動向

24年産米の市中価格が出来秋に高騰、春先以降に価格が下落し現在に至る。コメ卸の多くがこれによって在庫の差損を抱え、大きな赤字を抱えているところも少なくないようだ。いきおいコメ卸の関心は24年産米の消化に向かい、25年産米の購入には慎重にならざるを得ないのが実情だ。

産地側の価格提示内容も注意が必要だ。現在一部の早場産地では全農相対価格と概算金がすでに発表されているが、近年に比較して相対価格と概算金の差額が大きい。このような価格提示は買い手側に将来の価格変動の可能性を示唆するものであり、コメ卸との契約進捗は遅くなるとみられる。

また、商系の集荷業者もコメ卸の買い気の弱さから、集荷数量は少なくなると見込まれる。このため販売先がない生産者がJAに持ちこむしかなく、25年産はJAに多く集まる集荷環境にあると考えられる。別表に9/2現在JA系統で提示されている25年産の相対価格と概算金を整理した。今後関東の概算金などの決定状況を見ながら東北地区も単価設定を行っていくものとみられる。

平成25年度産の水稲 地域別平年収量が決定

～米どころ反収日本一は長野県 他の追従を許さず

農林水産省は平成25年産水稲の都道府県別10アール当り平年収量の内訳として、作柄表示地帯別10アール当り平年収量を決定した。対前年度比では佐賀県を除いて、どの地域も大きくは変化ない。10アール当たりの収量が500kg以上の都道府県は31道府県で全国平均530kgとなっている。また、全国平均収量を上回っている県は16道県にのぼっている。一番多収を上げているコメどころは長野県で平均623kg。県内東信地区・中信地区はともに638kgとなっている。第二位は山形県の594kgで県内村山地区が604kgとなっているが長野県と比べると約半俵の差がついている。また、一番単位面積当たりの収量が低い県は沖縄県で309kgとなっている。沖縄と長野を比べるとなんと2倍の差がついている。早生品種を栽培している地域では一般的に収量は普通期栽培と比べて少なく足をひばられているが沖縄県や東京都を除くとほぼ500kgに近い反収は確保出来ている。何故長野県の反収が高いのか？それはコメの栽培において適度な標高、豊かな水量、寒暖差、地力が高い農地が多くありとても恵まれた地域性を持っているからではないだろうか。また、コメ作りに関心のある熱心な生産者の方々が多いのも理由のひとつと言えるのではないかな。

平成25年産水稲の10a当り平年収量

(単位 kg)

| 順位 | 都道府県名 | 10a当り平均収量 |
|----|-------|-----------|----|-------|-----------|----|-------|-----------|----|-------|-----------|
| 1 | 長野 | 623 | 13 | 宮城 | 530 | 25 | 京都 | 511 | 36 | 大阪 | 495 |
| 2 | 山形 | 594 | 14 | 岡山 | 526 | 26 | 島根 | 509 | 38 | 群馬 | 494 |
| 3 | 青森 | 584 | 15 | 佐賀 | 525 | 27 | 愛知 | 507 | 39 | 神奈川 | 493 |
| 4 | 秋田 | 573 | 16 | 広島 | 523 | 28 | 山口 | 504 | 40 | 埼玉 | 490 |
| 5 | 山梨 | 547 | 17 | 茨城 | 522 | 29 | 兵庫 | 504 | 41 | 岐阜 | 488 |
| 6 | 栃木 | 540 | 18 | 静岡 | 521 | 30 | 大分 | 503 | 42 | 鹿児島 | 483 |
| 7 | 新潟 | 539 | 19 | 石川 | 519 | 31 | 三重 | 500 | 43 | 長崎 | 478 |
| 8 | 富山 | 537 | 20 | 滋賀 | 518 | 32 | 福岡 | 499 | 44 | 徳島 | 474 |
| 8 | 福島 | 537 | 21 | 福井 | 517 | 33 | 香川 | 499 | 45 | 高知 | 460 |
| 10 | 北海道 | 535 | 22 | 熊本 | 515 | 34 | 愛媛 | 498 | 46 | 東京 | 411 |
| 11 | 岩手 | 533 | 23 | 鳥取 | 514 | 35 | 宮崎 | 497 | 47 | 沖縄 | 309 |
| 11 | 千葉 | 533 | 24 | 奈良 | 513 | 36 | 和歌山 | 495 | | 平均 | 530 |

早期・普通期栽培の平均

2020年東京オリンピックの開催が決定しました！オリンピック特需が、我が肥料業界にも来るのでしょうか？！今から、7年後がとても楽しみです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp

